

プレスリリース

報道解禁日時 : 2011 年 7 月 12 日 00:01 (グリニッジ標準時)

REN21 は自然エネルギー2011 年世界的状況報告書を2011 年7月12日に発表
完全な報告書は <http://www.ren21.net/qsr> よりダウンロード可能

2010 年も継続した世界の自然エネルギーの成長

自然エネルギーは世界の最終エネルギー消費のおよそ 16%を供給

太陽光発電はコスト低下のおかげで 2 倍以上に拡大

自然エネルギーへの投資は世界全体で 30%以上拡大し、記録的な 2110 億ドルに

新興途上国で自然エネルギー政策の導入、投資、供給、消費での割合が拡大

REN21 は自然エネルギーの対話型世界地図を開始

2011 年 7 月 13 日パリ : 本日リリースされた REN21 による自然エネルギー世界白書 2011 年版は、景気停滞が続き、普及支援策が削減され、天然ガス価格の低迷などにもかかわらず、自然エネルギー部門が堅調に伸びていることを明らかにした。

2010 年には、自然エネルギーは世界の最終エネルギー消費のおよそ 16%を供給し、世界全体で電力の 20%近くを供給した。自然エネルギーの設備容量は現在、世界の総発電力の約 4 分の 1 を占めている。

報告書は REN21 の委託により、地球規模でネットワークする研究パートナーと協力して作成された。
(www.ren21.net)

「乱気流の時代に、逆風にもかかわらず、自然エネルギーは順調に伸びています。」とモハメッド・エル-アシュリーREN21 運営委員会委員長は言う。「今日、自然エネルギーの設置が成長し続け、価格が下がり続け、世界全体に占める自然エネルギーの割合が増え続けるにつれて、かつてないほど多くの人々が自然エネルギーからエネルギーを得ています。」

太陽光発電は、政府の導入支援策が拡大し、価格が継続して低下してきたおかげで、世界全体での太陽光発電の生産量と市場は2009年に比べて2倍以上になっている。

ドイツで2010年に増えた太陽光発電の規模は、2009年に世界全体で増えた量よりも多かった。日本と米国における太陽光発電の市場は2009年と比較して2倍近くになった。

全世界的に見て、（水力と太陽光発電に続いて）風力の新規設置容量が最多となったが、ヨーロッパでは初めて太陽光発電が風力発電の設置容量を上回った。

自然エネルギー政策は引き続き主要な原動力であり、自然エネルギーの発展を下支えしている。2005年初旬には、わずかに55カ国が何らかの政策目標あるいは自然エネルギー支援政策を国レベルで掲げていた。2011年初旬までの時点で、少なくともその2倍以上となる119カ国が導入した。しかも、それらの国の半分以上が発展途上国である。

少なくとも95カ国が、自然エネルギー発電を支援する何らかの政策を現在掲げている。政府が採用する全政策の中で、固定価格買取制度が最も一般的である。

昨年は、自然エネルギーへの投資は2110億ドルに達し、2009年に投資された1600億ドルより約3割多く、2004年の投資額の5倍以上であった。

最近公表されたGSRの連携報告、UNEPの2011年自然エネルギー投資における世界的動向に示されるように、自然エネルギー企業や電力会社規模の発電事業、バイオ燃料プロジェクトへの投資は1430億ドルに増大し、初めて発展途上国が先進経済を抜いた。中国は485億ドル、あるいは世界総計の3分の1以上を集めたが、他の発展途上国は政策、投資、市場動向、製造に関して大きな発展を経験した。

アジアのほか、多くの中南米諸国でも大幅な進歩を見せ、中東、北アフリカ、サハラ以南のアフリカの少なくとも20カ国には活発な自然エネルギー市場がある、と報告している。

2010年を通して、小規模な電力プロジェクトと研究開発への投資を先導したのは、依然として先進国であり、具体的にはドイツ、イタリア、米国がトップ3であった。

「将来のエネルギー需要の成長の大部分が発展途上国で起こることが予想されているため、今年の報告で強調されたように、自然エネルギーが発展途上国でとくに増加したことは非常に励みになります。」とモハメッド・エル-アシュリーREN21の運営委員会委員長は言う。

「基本的なニーズへの対応だけでなく、経済発展を可能にするために、世界中でますます多くの人々が自然エネルギーから得られるエネルギーサービスを享受しています。」とエル-アシュリーは言う。自然エネルギーは、世界中の最も辺境な地域で、照明、通信、料理、暖房や冷房、揚水を含む基本的なエネルギーサービスを一人でも多くの人々に提供していることを保証していると同時に、自然エネルギーの利用自体が原動力となって経済成長を生み出しつつある。

報告書のその他の注目点：

- 自然エネルギー発電は、現在、世界の総発電力の約 4 分の 1 を占め、総電力の 20% 近くを世界的に供給しており、そのほとんどが水力発電が占める。
- 発展途上国は（一括して）世界的な自然エネルギー発電の半分以上を有している。
- 太陽光発電力の設置容量は 100 カ国以上で追加された。
- 水力発電を除く自然エネルギー電力設備の設置容量のトップ 5 は米国、中国、ドイツ、スペイン、インドであった。
- 米国では、自然エネルギーは国内主要エネルギー生産の約 10.9% を占めており（原子力の 11.3% と比べて）、2009 年の間に 5.6% の増加を示した。
- 米国では、30 州（およびワシントン D.C.）で自然エネルギー割り当て義務（RPS）を設けられている。
- 中国は、風力発電と太陽熱システムの設置で世界一であった。また、2010 年における水力電力生産者のトップとなった。中国は系統連系した自然エネルギー発電がおよそ 29 GW 増え、総計 252 GW を達成し、2009 年比で 13% の増加となった。
- 中国で 2010 年末における自然エネルギー総設備容量は約 26% を占め（発生量の 18%）、最終エネルギー供給の 9% 以上だった。
- ブラジルは、世界の砂糖由来のエタノールのほぼ全てを生産しているほか、新しい水力発電、バイオマス発電、風力発電、太陽熱利用設備なども追加している。
- 欧州連合では、2010 年に新設した自然エネルギーによるエネルギー設備容量がおよそ 41% を占めた。それでも、2009 年に新規設置された自然エネルギー発電の容量 60% 以上と比べて比率は低いものの、自然エネルギー設備容量で見ると、かつてないほどヨーロッパで拡大した。
- 欧州連合は、2010 年に自ら定めた風力、太陽光発電、集中型太陽熱発電、ヒートポンプでの目標を全て超えた。フィンランド、ドイツ、スペイン、台湾を含む国々は目標を引き上げ、南アフリカ、グアテマラ、インド等の各国は新規導入された。
- 発展途上国は、政策目標を掲げる全ての国の半分以上を代表し、自然エネルギー支援政策を持つ全ての国の半分を代表する、自然エネルギーの進歩においてますます重要な役割を果たしている。

REN21 はまた、自然エネルギー対話型地図（自然エネルギーに関連している開発についてオンラインで情報を収集したり共有したりするための最新式ツール）を立ち上げている。www.map.ren21.net.

問い合わせ：アレクサンドラ・パヴレスク、alexandra.parvulescu@ren21.net、電話 +33 1 4437 5091

REN21 について：REN21 は自然エネルギーに関する国際的なリーダーシップのためのフォーラムを提供する地球規模の政策ネットワークである。その目標は、発展途上国や先進工業国の経済において、自然エネルギーの急速な拡大のために政策展開を強化することである。REN21 事務局は国連環境計画（UNEP）とドイツ国際協力公社（GIZ）によって支援されている。

REN21 による自然エネルギー世界白書（GSR）は自然エネルギーの世界的規模の広範囲な現状を総合的にとらえるものである。本報告書は、数千ものデータ、数百のレポートや資料、及び世界各国からの専門家との個人的なコミュニケーションを融合したものを含んでいる。本報告書は数人の著者、REN21 事務局のスタッフ、運営委員会のメンバー、地域研究パートナー、100 人以上の個人的な貢献者や批評家が共同で取り組んだものである。

REN21 の自然エネルギーの対話型地図（自然エネルギーに関連している開発についてオンラインで情報を収集したり共有したりするための最新式ツール）www.map.ren21.net.